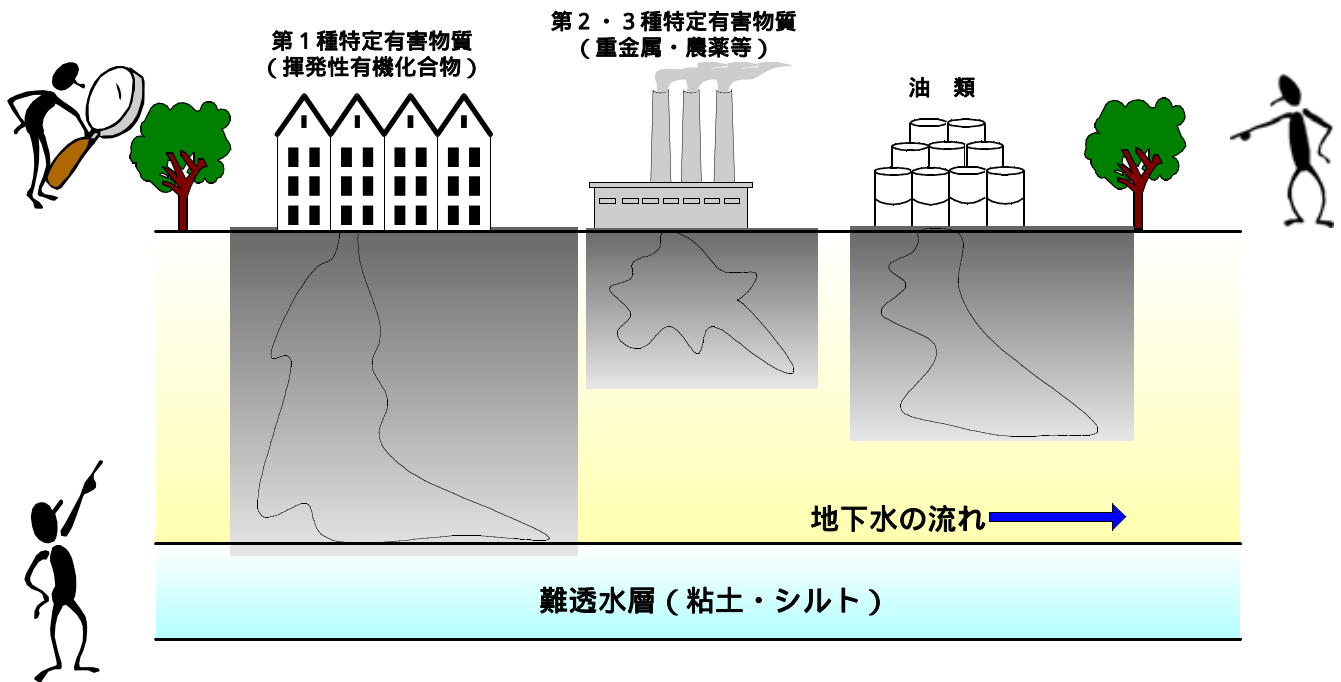


—— 土壤汚染の調査と対策 ——



「豊かな自然と共存しながら，安心して暮らしたい。」これは人類共通の願いであり，そのために人々の環境への意識は高まるばかりです。

そのような中，土壤・地下水汚染問題が広く取りざたされています。

昨今の我が国の経済復興の決め手と期待される不動産の流動化の中でどのように土壤・地下水汚染の修復を行うべきか，また，修復のレベルに応じた不動産の活用を検討するかなど，土壤・地下水汚染と“どのように付き合うか”を真剣に検討する必要があります。

土壤・地下水汚染の状況を調査・分析し、汚染地盤を修復する地盤環境改善事業は社会経済的に重要なものです。

弊社は，環境省より「土壤汚染対策法」による「指定調査機関」に指定され，土壤・地下水汚染可能性調査から修復設計・工事，モニタリングまで，専門調査・コンサルティング会社として様々な要請・要望にお答え致します。

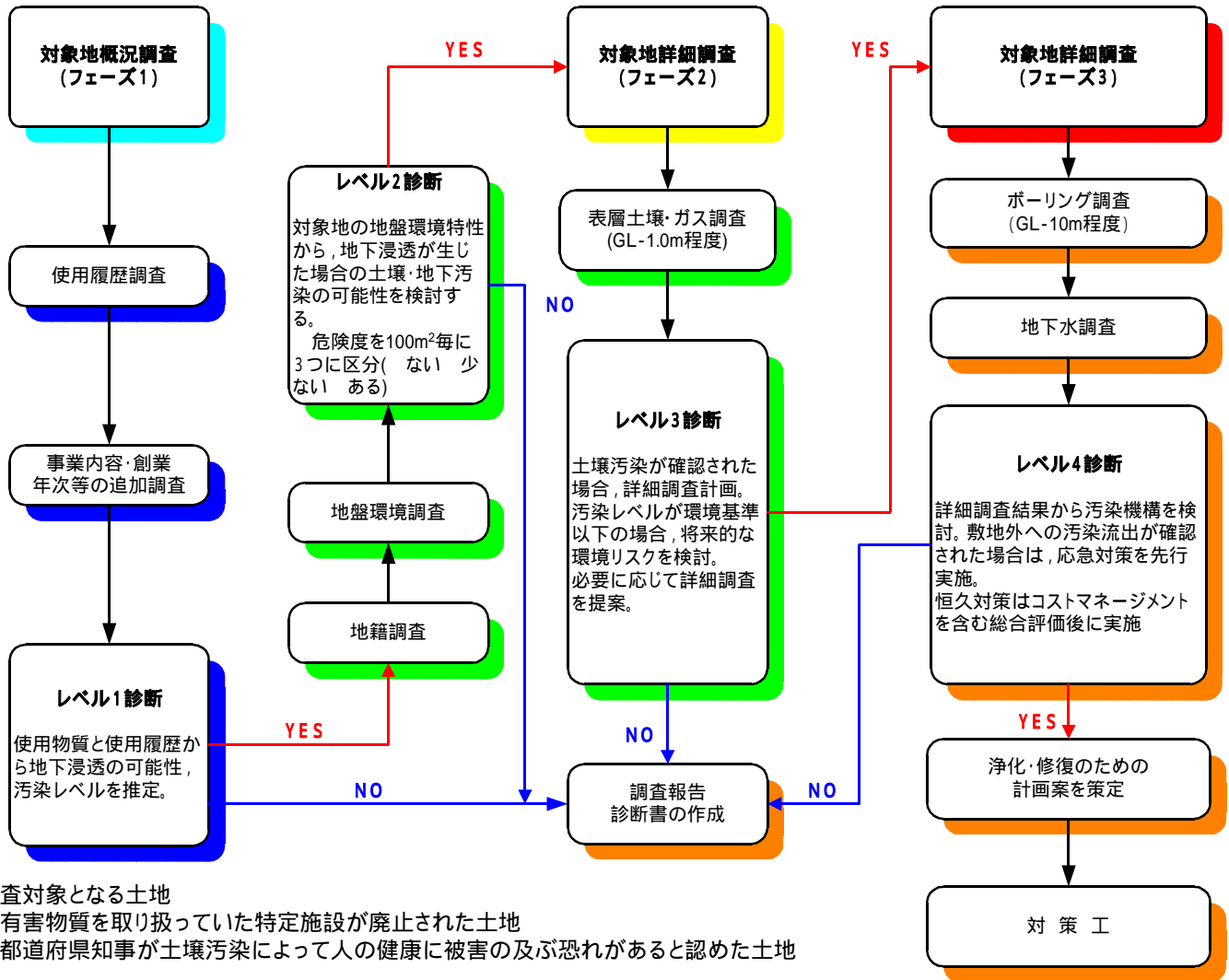


日本地研株式会社

〒 816-0094 福岡市博多区諸岡 5 丁目 2 5 番 2 5 号
U R L <http://www.chiken.co.jp>

TEL : 092 - 571 - 2764
FAX : 092 - 574 - 2072

- 土壌・地下水汚染可能性調査の流れ -



全ての土壌・地下水汚染を環境基準まで浄化することは経済的に非現実的な話です。どこまで浄化するのか、どのような修復方法を実施するのか、どのような土地利用が可能であるか等の方針を検討する必要があります。そのためにも土壌・地下水汚染の現況を適正に把握することが望まれています。

対象地概況調査(フェーズ1)

資料等調査によって、対象地の土地利用及び有害物質の使用履歴など、汚染のおそれについて、容易に入手できると認められる範囲で把握対象地を有害物質ごとおよび、おそれごとに分類

分類	把握事項
地形・水文地質構造	地形、地質、水文地質、地下水流動
地下水汚染状況	汚染濃度分布、汚染濃度変化
汚染物質の利用状況	汚染物質の使用状況 (原材料、使用薬品、使用方法、使用量、使用期間、回収量) 汚染物質の保管・運搬状況 (保管場所、保管方法、輸送方法) 排水・廃棄物の発生・処理状況 (発生量、発生経路、処理施設、排出量、排出濃度、廃棄物埋め立ての有無など) 施設の破損や事故の履歴 (汚染物質の漏出の有無)
土地・地下水の利用状況	土地利用(過去、現在、将来計画) 地下水利用(過去、現在、将来計画)
過去の事業活動	過去の事業活動における汚染物質漏出の可能性

対象地詳細調査(フェーズ2)

表層土壌・ガス調査を実施
汚染レベル・汚染リスクの検討

表層土壌調査



採取コアサンプル

表層ガス調査



ポータブルGC (PID)

対象地詳細調査(フェーズ3)

環境ボーリングマシンにより、深さ方向の汚染レベルの把握
浄化・修復等の対策検討

環境ボーリング

対象物質の分析に適した試料の採取
掘削深度、調査点数等に応じた掘削マシン・掘削方法の選定
二次汚染防止



環境ボーリングマシン